

国土交通広域連携中部会議

第2回

平成17年11月18日（金）
名古屋観光ホテル2階「曙の間（西）」

○司会（中北 中部地方整備局副局長）

ただいまから第2回国土交通広域連携中部会議を開催いたします。

本日はお忙しいところ、ご出席いただきましてありがとうございます。

私、進行します国土交通省、中北と申します。よろしく願いいたします。

本日の出席者でございますが、失礼ながらお手元の「出席者名簿」でご紹介に代えさせていただきます。よろしく願いいたします。

それでは、開会に当たりまして国土交通省中部地方整備局長の大村からご挨拶を申し上げます。

○大村 中部地方整備局長

中部地方整備局長の大村でございます。今日は本当にお忙しい中、また、知事さん、市長さんにおかれましては、会議の連続ということで大変お忙しいところ、ありがとうございます。

広域連携中部会議の趣旨でございますけれども、名のとおり、広域的な連携を図りながら、国土交通行政に関しまして、国・地方の関係者の皆様から、中部地方の将来像、当面する課題につきまして意見交換をして、共有をするという趣旨でございます。

前回は平成15年7月28日に実施をいたしまして、社会資本整備重点計画中部ブロックの将来の姿についてご議論をいただきました。

今回の趣旨でございますけれども、9月30日に「まんなか懇談会」から万博後の中部が目指

すべき将来像に関する提言「ポスト万博宣言」をいただいております。この提言につきましては、私が窓口でいただいたわけでございますけれども、内容につきましては産官学民すべての人に向けて発せられた内容となっております。

本日は、「まんなか懇談会」の座長をお務めいただきました須田座長ご自身から皆様方にご紹介をいただきたいと思っております。

その後、短い時間でございますけれども、いろいろなご議論をしていただければということでございます。何分にも時間がございませんので、議論が尽くせるものではございませんけれども、これをスタートに大きなうねりになっていけばと考えております。

それから、現在、東京の方で国土形成計画の議論も始まっております。これも地方の計画を積み上げてということになってございますので、そういった中でもこの提言の議論が生かされていけばと思っておりますので、ぜひ忌憚のないご意見をよろしくお願い申し上げます。

以上で挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○司会（中北 中部地方整備局副局長）

それでは、報道機関の皆様方にはこれ以降の取材、撮影は記者席にてお願いいたします。ご協力をお願いいたします。

それでは、議事に入らせていただきます。

先立ちまして、本年4月に静岡市が政令指定都市になりましたことを受けまして、今回の会議から静岡市長様にもご参画をいただきたいと考えております。そのように進めさせていただいてよろしゅうございますでしょうか。

（「異議なし」の声）

○司会（中北 中部地方整備局副局長）

ありがとうございます。それでは、今回から静岡市の小嶋市長様にご参画をいただくということで進めさせていただきます。

早速ですが、小嶋市長、一言お願いできますでしょうか。

○小嶋 静岡市長

ただいまはお仲間に入れていただきまして、ありがとうございます。静岡市長の小嶋でございます。

静岡市は2年半前、旧静岡市、旧清水市が合併をいたしまして、対等合併だったのでありますが、名前はたまたま静岡市ですけれど、旧両市はいったん廃すということになりましたので、3年目の新しい静岡市であります。

この4月に全国で14番目の政令指定都市になりまして、この会議に加えていただくことになりまして、ありがとうございます。

静岡市は、静岡県の県庁所在地でありまして、特に交通、道路の関係では大きな課題を抱えているところであります。ちょうど東京、大阪、名古屋の間に位置しておりまして、我が静岡市の中に2つのインターができる、第2東名の工事が着々と進んでおります。そういうことによってまた都市としての力も増してくると思いますが、それと並行して、中部横断道路、北陸、新潟から静岡までの高速道路で直結される、大きな高速道路のプロジェクトであります。これも今進みつつありまして、中部の中でも一つの中核都市として、幅広い圏域に影響を及ぼす都市になろうというところでもあります。そういう点で、インフラの整備がそれに伴って進んでいくことが大きく期待されるところであります。

また、清水港という特定重要港湾も抱えておりまして、これはスーパー中核港湾5つの次の7つ目に機能を持っている大きな港であります。そういったものを中心にして、これから都市の活力を高めていこうというところでもあります。

今後とも中部地域の一員として皆様方のお力添えをいただいて役割を果たしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

○司会（中北 中部地方整備局副局長）

ありがとうございました。

本日は、先ほど中部地方整備局長の話にございましたように、「まんなか懇談会」の「ポスト万博宣言」をテーマにいたしまして、中部地方の抱える課題につきまして議論いただいて、共通認識を持ちたいという、こういう趣旨を考えてございます。

それでは、この提言の取りまとめをいただきました有識者の方からご説明、あるいはご意見をまずいただきまして、それを踏まえて議論を進めたいと考えております。

まず、この「ポスト万博宣言」をご提言いただきました国土交通省中部地方有識者懇談会、通称「まんなか懇談会」でございますが、これの座長をお務めいただきました、東海旅客鉄道株式会社の須田相談役よりご説明をお願いいたします。よろしく願いいたします。

○須田 東海旅客鉄道(株)相談役

須田でございます。

大変僭越でございますけれども、私からご説明申し上げますので、よろしくお願ひ申し上げます。約20分でご説明せよということでございますので、若干要領を得ないかもわかりませんが、簡単にご説明申し上げたいと思います。

ご覧いただきます資料は、お手元でございますが、「国土の健康回復を実現する中部のモノづくり」、通称「ポスト万博宣言」という名が付いているわけでございますけれども、この資料をご覧いただきながらご説明を申し上げます。ご参照いただきますページ数その他、その都度申し上げますので、お開きをいただきたく存じます。

まず、この宣言を作ります際の問題提起といたしまして、日本の真ん中にある中部地域として21世紀の社会基盤整備はどのようにあるべきだろうかという問題意識がございました。全国的な社会基盤整備の基本になると言ってもいい地域でございますので、どのようにしていくかということは非常に大きな国家的な関心事だと思ったからでございます。

次に、万博が終わったわけでありましたが、万博の成果、万博の心と申しますか、こういうものを継承発展させてまいりますためにいろいろな施策が必要でございますけれども、そのための社会基盤整備はどうあったらいいだろうか。そんなようなところがまず問題提起としてあったかと存じます。

それを受けまして、これからの中部の方向といたしまして私どもが念頭に置きましたのは、21世紀の日本発展の原点に中部はなるべきではないか。日本の真ん中にあるということと、国家行事である万博を開催できたということ。そういったことが一つあるかと思ひます。

それから、今一つは21世紀を中部発展の元年にしたいということです。中部はこれから、万博の後、21世紀のいよいよ中部元年がここからスタートするのだという気持ちがあります。ちょうど万博中をお正月三が日といたしますれば、今は4日の御用始めのところに来たくらいのつもりで、どう考えたらいいかということ整理したつもりでございます。

そういったような考え方に立って、以下ご説明をしたいと思ひます。

今のような基本的な理念につきましては、本資料の1ページ目の「本提案の狙い」という所その他に簡単に書いてございます。

それでは、資料の3ページをご覧いただきながら、以下の話をお聞きいただきたく思ひます。

今のようなことを念頭に置きましてこれからの方向を考えるわけでございますけれども、その場合、どうしても念頭にございますのは、大きな国の予算を入れていただいて万博を開いていただいたわけでございますから、開催地としてのひとつの責務のようなものがあるような気がいたします。同時にまた、日本の真ん中という大変優れた立地条件にありますところの中部にいたということの立地上の責任もあろうかと思うわけであります。

同時に、万博の成果を多くの日本国民の皆様方にお返しをする。そういうこともやらなければいけないと思うわけでございます。もっとも、国とともに万博を一生懸命やったわけでございますから、当方も貢献したわけでございますけれども、さらにそういったことがあるのではないかと思います。

そこで考えなくてはいけないことが、およそ3点あると思います。

1つは、安全・健康な国土づくり。これがこれからの中部の基盤でなければいけないと思います。

第2に、競争力のある産業拠点圏づくりが必要だと思えます。これから、この地域は産業中枢として、生きていかななくてはならないわけでございますから、競争力のある産業拠点を作り出す。

それから、交流拠点圏域を作る。そういったことあると思えます。

安全・健康な国土づくり。競争力のある産業拠点圏づくり。それから、交流拠点圏域を作る。この3つであろうかと思えます。

そのために具体的に何をなすべきかということにつきまして、3ページの左欄に今申し上げたことが書いてございまして、安全と健康というのは上の1番目、2番目がそうでございますし、競争力の方は3番目、交流は4段目でございます。ここにおよそのことが書いてございます。

ご参照いただければと思えますが、簡単にポイントだけ申し上げますと、安全・健康な国土づくりにつきましては、当然、防災、それに伴うインフラ、環境の整備、循環型社会を作る。そういったことが出てくると思えます。環境と循環ということがキーワードになるのではないかと思います。

競争力のある生産拠点づくりにおきましては、高速交通情報ネットワーク。そういったネットワークの形成がどうしても必要だと思えます。同時にまた、産業拠点都市を作り出していく地域力。そういったことがポイントになるろうかと思えます。

3段目の交流拠点圏域づくりにつきましては、やはり文化技術の集積ということが必要だろ

うと思います。また、集積するに耐える地域にする必要があるだろうと思います。交通体系の問題がここでも出てまいりますし、また、自然・歴史を踏まえ、新しい観光資源づくりといったものが交流拠点づくりでは出てくると思います。

以上、4段になっておりますが、およそ3つの項目、これがこれからの中部のひとつの大きなキーワードになるものではないかと思っております。その辺りのところが3ページに書いてございます。

4ページ、5ページの見開きの所に、それを図式化しております。上の方に2つ、左に産業拠点、右側に交流拠点の項がありまして、そしてその下に、基盤になるところの「健康で美しく、人に優しい圏域」というのがございます。さらに、一番下の基盤に、黄色く大きく書いてございますように「安全な国土と安心できる暮らし」というのがあります。これが一番のベースでございます。その上に今の3つの柱が立っています。その3つの柱を全部、真ん中で結んでおりますのが産業観光であり、国土マインドの育成であります。このように考えて、この議論は整理されております。

産業観光と申しますのは、産業の成果を広く世の中に広げるためのものであり、同時にまた、観光というのは交流の大きなポイントであります。それら産業と観光の両方が調整されるのが産業観光ではなかろうかと思っております。

そして、全体を通じた考え方が国土マインド、つまり、国土を大切に作る心であります。そうといったものが中心になるのではないかということで、この4段の図式についてはこのような関係があるかと思っております。このあたりをご覧くださいますと、意見書の組み立てがご理解いただけるかと存じます。

以下、ずっとございますのは、先ほど申し上げました4段に分けましたところの考え方、安全・健康な国土づくり、生産拠点圏づくり、交流拠点圏づくりのさらなる具体的な施策をより細かく書いたものでございまして、6ページから13ページにわたっておりますが、これはご覧をいただければと思います。先ほどの骨子の説明でもって本席では代えたいと思います。

ここに書いてございますように、非常に幅広いいろいろな施策の展開でございまして、特に先ほど申し上げましたように防災、それから環境の問題、交通のインフラの問題、観光の問題、それから、そのすべてをなすところの国土マインド。そういったようなものが必要だということ、この中をご覧くださいますとご理解いただけるようになってきているかと存じます。

14ページに飛んで恐縮でございますけれども、今のようなことを考えてまいりますと、これ

からどのような課題が残っているか、これが大事なところなのでございますけれども、どのような課題が残っているかということにつきまして4項目ばかり挙げさせていただきました。それについて簡単に申し上げたいと思います。

まず第1は「選択と集中」と書きましたけれども、今度の万博を機にいたしまして、あるいは中部国際空港を機にいたしまして、いろいろなインフラ整備がなされました。しかし、今後を考えてまいりますと、やはり重点的なインフラ整備、社会基盤整備がこれからも必要だと思います。重点的でございます、総花式では決してないということと、今ある設備をどのように有効に使うかといったようなことが着眼点になるかと思っておりますけれども、そのような考え方がまずひとつできるかと思っております。

重点的なインフラ整備と、現在あるインフラの有効活用。それらをめぐって新しい中部を作っていく。これが一つの課題ではないかと思っております。

2番目に「自助・共助・公助による協働の実現」と書いてございますけれども、大まかに言いますと、きめの細かいことは個人1人1人、そして、骨格になるようなものは国なり公共的な主体が考えるというのが一つの前提でございますが、その中にありまして、自らやること、皆でやること、公的支援を得てやることであろうかと思っております。その役割分担をはっきりさせて進むべきではないかということが、この2番目の所に指摘されております。

3番目は「適正な国土の形成」ということでございます。ここでもやはり役割分担の議論が出てきております。たとえば中山間地域、都市地域であります。これはおよそ違った性格を持っておりますけれども、相互に依存をいたしております。中山間地域がしっかりしていなければ災害が起こりますし、都会生活もうまくいかない。また都会の生活があつてこそ、中山間地域も生きてくる。そういうようなことがございますので、適正な国土を形成するためには、中山間地域と都市地域の適正な役割分担が必要ではないかと思っております。ここでも役割分担の問題が出てまいろうかと思っております。どのようにして適切な役割を担っていくかということが一つの大きな課題ではないかと思っております。

4番目にございますのは、これから出てくる大きな問題といたしまして、圏域の設定の問題がございます。九州や北海道ではそういう議論はあまりないわけでございますけれども、これから国土形成計画を作つてまいります場合に、何が中部圏なのかということが非常に重要な問題になってまいります。

以下にいろいろな中部圏が図式化されておりますけれども、一体どれが適切なのか。これから出てまいります国の計画におきましては、フェジーなものはないと思っております。たとえば三重

県が近畿圏と中部圏の両方に入るようなことにはならず、必ずどちらかの圏域に割り切ってしまうのだということをおっしゃるだけで、この範囲をどのように取るかということは非常に重要な問題でございます。この取り方によっては施策が根本的に変わるような問題がございます。この「まんなか懇談会」におきましては、この問題の議論もいたしますし、中央においてもこの議論がなされると思っておりますけれども、その動きを十分注視いたしながら、まず土俵を決めることになるわけでございますから、この点が今後の大きな課題になるのではなからうかといったようなことがここに書かれているわけでございます。

以上がおおよその骨子でございますけれども、もう1回整理をして申し上げますならば、今

申し上げましたように、これから中部が日本の真ん中であって、21世紀の日本を担ってまいる際の社会基盤整備の考え方、万博の成果をどのように継承、発展させるかというところから始まりまして、今後の展開といたしまして安全・健康な国土づくり、競争力のある生産拠点圏づくり、交流拠点圏域づくりというものがある。それらをそれぞれ関連させながら進めていく場合に、選択と集中ないしは役割分担、さらには圏域の設定がある。そういうふうなことがここに書かれた提言の趣旨でございます。

なお、お手元に「国土の健康回復を実現する中部のモノづくり」という資料が入っております。ちょっとこれをご覧いただきたいと思っております。これは官民が一致協力してこれから取り組むべきことが書いてございまして、あるいは後ほどまたご説明いただくかも知れませんけれども、まず環境産業、交流産業の拠点になるようなエコメッセの形成が必要ではないか。

そして、伊勢湾の再生が非常に大きな問題でございます。幾つかの県、ないしは多くの市町村にまたがっておりますので、広域連携をしながら伊勢湾の再生への取り組みが重要だということ。

それから、景観の保全も重要な問題でございます。

産業競争力につきまして、いろいろなワーキンググループを作って進めていきたいという、整備局その他の考え方をここに整理いたしております。特に経済界の皆様方、あるいはお役所の皆様方が協力してやっていかなければいけない問題としては、エコメッセの設定でありますとか、新たな圏域の認識とか、伊勢湾再生に向けての取り組みがございますので、それを先ほどご説明いたしましたような考え方の実現、応用といたしまして、ぜひこれからの方向についてご議論を深めていただき、実現の方向に向かう努力を傾けていただきたいと存じます。

もう1つ、これもお手元に入っております資料ですけれども、「中部（東海、北陸、信州）広域観光協議会の設立について」という資料が入っておりますが、これも今の問題の応用としてご説明をさせていただきます。

これは先般、名古屋におきましてスタートをいたしまして、ここにお出ましの知事、市長さんをはじめ多くの方々のご臨席をいただきまして作ったものでございまして、これから観光を広域的に推進するための母体にしたいと考えております。先ほど知事さん、市長さんから別の

会議でもお話がございましたけれども、これから大事なことは、すべての問題を広域的に処理していくことだと思います。北陸も東海も、ともに中部地方でございますので、そういったものが一緒になる。さらに長野県を一緒にして、ちょうど知事会の構成メンバーが1市9県だそうでございますので、1市9県の皆様方と歩調を合わせながら、1市9県が一致して観光に取り組みたいということでございまして、そこに書いてあるような内容でこれから具体的な施策を進めてまいりたいと思います。

したがって、ぜひ皆様方のご指導とご支援をお願いしたいと思うわけでございます。特に観光資源を新しい広域という考え方に立って再発見をしていきたいと思っております。その中でモデルルートその他を作って、観光しやすい体制を作り上げていく。そのためのインフラその他について要望していく。あるいは、東海北陸道ができました場合に、その受け皿として広域観光協議会による全体の広域観光というものが受け皿になる。そういった意味合いで、広域観光が重要な時期を迎えておりますので、お手元でございますような協議会がスタートした次第でございます。

「まんなかビジョン」をまさに具現化する、非常に大きなプロジェクトではないかと思えます。各県・市の皆様方、あるいは各お役所の皆様方にも格段のご指導をいただきながら、広域観光をさらに幅広く推進してまいりたいと思っております。どうかひとつ、よろしくご指導いただきますようお願い申し上げます。

非常に端折った説明でございますけれども、時間の関係もでございますので、以上で「まんなか懇談会」の「ポスト万博宣言」についてのご説明を終わります。

これから大切なことは、2,205万の方が万博に集われました。大変なことございまして、これは大いに成功だと申し上げるべきだと思います。

しかし、これが真の成功に結び付くためには、2,205万人の方がおいでになったということだけでは十分ではないと私は思うのでありまして、万博の心がこれからも中部地域に生き続けて、継承されながら、さらにそれが発展をし、これからの地域づくりなり国土づくりに生かされてこそ初めて万博は成功だったと言えるのではないかと思います。

万博の心と申しますのは、2,205万人の方がここにお集まりになったという事実、これだけの交流がなされたという事実です。大変重いものがございます。これをきっかけにして、これからもこの地域でより幅広い交流を末永く続けるためには一体何をなすべきか。観光にいたしましても、ビジネスにいたしましても、いろいろな交流がそこには必要になる。そういうようなことが一つあるかと思えます。

もう1つは、環境について正面から向かい合うという姿勢が明らかにされ、それがかなりの

程度、理解を深めたということをごさいますして、環境問題に対する理解は数歩前進したと私は思っております。

それが、これからの我々の日常の営みの中に、またいろいろな国の政治の中に、地域の運営の中に生きていかなければいけません。このように思っております。それが生きて、さらに拡大し、かつまたいろいろな施策として結実してまいりますときに、初めて万博が成功したと言えるのではないかと思います。「万博の心を中部にいつまでも」と私は申し上げているわけですが、それができるかどうかにかかっていると思います。

「まんなか懇談会」で出しました「ポスト万博宣言」は、まさにその気持ちで、万博の心をいつまでもこの中部で大事にして、それを発展させる。そしてその成果を、地域の皆様はもちろんでありますけれども、国全体にお返しをしていく。そのために私どもは重要な責務を担っていると思っております、そんな考え方で何をなすべきか、どんな社会基盤を整備すべきかということについて、先ほど申し上げたような考え方でまとめた次第でございます。

どうかそういうお気持ちでもって、長期的にこの中味につきまして実現につきましてご努力いただきますと同時に、いろいろフィードバックをしていただいて、皆様方からこの提言につきましてご意見を賜りながら、これからの施策に生かしていただければと思っております。そのようなことをお願い申し上げて、私のご説明を終わりたいと思っております。ありがとうございました。

○司会（中北 中部地方整備局副局長）

ありがとうございました。

続きまして、同じく「まんなか懇談会」の委員として議論にもご参画をいただきました社団法人国立大学協会専務理事の松尾様よりご意見をちょうだいしたいと思います。よろしくご願ひ申し上げます。

○松尾 (社)国立大学協会専務理事

松尾でございます。

それでは、2～3分で申し上げたいと思っております。自分が参画しておりながら、我田引水になるかもしれませんが、この懇談会は意見が活発でありまして、須田さんのリーダーシップでこのように非常によくまとまったと思っております。

今、須田さんが触れられなかった点で、私が常々主張して、かつそれが基本的なコンセプトとして大体認められたと思っておりますことを少し申し上げます。まず、現在は技術＝スピードということが頻繁に言われております。

そういう中で、社会資本というのは3世代、4世代先の長期スパンを考えて、そして国の将来のビジョンを描いて、100年先を見据えてグランドデザインを作らなければなりません。ですから、100年というオーダーでこれが考えられているということです。40～50年は中期計画であって、10年、20年は短期計画と位置づけて考えていこうということでございます。

なぜなら、社会資本というのは申すまでもありませんけれども3世代、4世代先の人たちと価値観とか責任あるいは負担も共有しなければならない。そういうことは全委員の認識として共有されたとは私は考えております。

それから次に、全体の計画を考えていきます場合に、日本だけを取り上げていきますと、物理的な量、たとえばその最たるものは人口であります。これをはじめとして物理的な労働力といったものが縮小してくることをしっかりと捉えていかなければならない。例えば、人口は50年先には1億人を確実に割るだろう、100年先には数千万、もっと減るかもしれないと中位推定で言われております。したがって、都市の作り方も変えていかねばなりません。住宅の数とかもどんどん減ってまいります。

そういう境界条件をしっかりと頭に入れながら、物事を考えていく必要があります。そういたしますと、先ほどの中部圏域の考え方に関しても、幾つかの拠点をコンパクトに作っていく。その拠点の間は農地を含めた緑で覆って、拠点間は余裕のある間に幹線インフラできちんと結んでいく。それは一つの都市の中でも同じことが言えまして、都市の中でも幾つかの拠点を形成して、その間をインフラできちんと結んでいく。その場合に、既存の鉄道の駅などをもっと有効に使っていくことがぜひ必要ではないだろうか。懇談会での議論が行なわれた背景にはそういう考えがあったと私は思っております。

そういうことで、ただいま須田座長からご報告がありましたように4つの柱でいろいろなものが出てきたわけで、最後の方にご説明されましたが、今後の課題として、結論的には優先順位をきちんと付けて、先ほどの短期計画、中期計画、長期計画に乗せながら、何をどこから手を着け、実現をしていくかということ、短期の場合にはロードマップ的にきちんと書いて実行していく必要があるだろうということ、我々は話し合いました。

そのときに、これは若干、私の個人的な言い方になるかもしれませんが、やはりキャッチフレーズが必要ではないか。これは「まんなか懇談会」全体の合意を得たわけではありませんが、私はキャッチフレーズというものは非常に効果があると思うのです。私は須田座長にも申し上げましたし、座談会でも申し上げたし、先ほどの最後のページにも書いてありますが、口頭で申し上げますと「特徴のある、コンパクトな複数の拠点からなる真に豊かな地域」というキャ

ッチフレーズです。「真に豊かな」というところには当然、精神的なもの、物理的なものも全部含めているわけです。そして、副題として「縮小こそ新たな美しい発展へのみち」ということで、「縮小」をネガティブに捉えているわけではなくて、人口が減ってきて、それでもなおかつ住みやすい都市とか地域を作っていく、あるいは、生産性を上げていくことにつながる意味での縮小ということでもあります。そういう意味で、文化的にも豊かになる。住みやすさという意味で、真に豊かなという、そういう意味を込めて、キャッチフレーズを作って、ロードマップを作りながら、長期ビジョンも見据えて一つずつ実行していくことが必要であろうと思います。こういう議論を私個人はいたしましたし、基本的な考え方は大体皆様と合意できたと思っております。以上です。

○司会（中北 中部地方整備局副局長）

ありがとうございました。

続きまして、経済団体の側からもご意見をちょうだいできればと考えます。中部経済連合会会長の豊田様、いかがでございましょうか。

○豊田 中部経済連合会長

この問題につきましては、私、必ずしも今まで参画していたわけではございません。ちょっと当惑している現状でございまして、申し訳ないと思っております。

長いスパンで考えた中部というようなことをどう考えるかということにつきまして、須田さんにしても、松尾さんにしても、次元の高いお話をされまして、私ども、そうかということをおっしゃるわけですが、私としては、ちょっと今、お話ができないというのが現状でございませぬ。

○司会（中北 中部地方整備局副局長）

続きまして、東海商工会議所連合会会長をなさっております箕浦様、いかがでございましょうか。

○箕浦 東海商工会議所連合会会長・名古屋商工会議所会頭

ただいまお話を承って、私は大変よくまとまったレポートだろうと思います。

特に、私どもの地域はご承知のとおりモノづくりの中心地でございますので、私どもはこれからはますます日本の中心になって進歩発展していく必要があると考えるわけでございます。

そのためには、どうしても名古屋港とか四日市港というスーパー中枢港湾に指定されました所を整備拡張していくことが大切です。また、高速道路をうんと拡大して整備していくことが

必要だろうと思います。また、何十年か先になると思いますが、中部国際空港を整備するという、新しい滑走路を作ることも必要になってくるだろうという気がするわけでございます。

そういった意味で、非常に大切な提言をしていただいて、大変ありがたいわけですが、これからの時代はスピードが重要視される時代でございますので、ぜひこのように変化に富んだ状況に対応できるような、政策、スタンスを作っていただくことが大切ではないかと考える次第でございます。以上でございます。

○司会（中北 中部地方整備局副局長）

ありがとうございました。

残り時間が15分余りございますので、少ない時間ではございますが、皆様方から積極的にご意見をいただきたいと思っております。ご意見のある方は挙手をお願いいたします。

○須田 東海旅客鉄道(株)相談役

一言だけ、さっきの説明のなかで申し上げるのは適切でなかったのがこの際申し上げたいのですが、やや私見が入りますので答申には書いてありません。

非常に心配していることがございます。それは、万博のために整備をされましたインフラでございます。大変なインフラが整備されました。

道路にしても、鉄道にしても、これを地域が有効に活用できなければ、全国に対して非常に恥になるのではないかという心配をいたしております。大阪万博のときには閉会後もインフラがみごとに使われておまして、地下鉄の御堂筋線北大阪急行も非常によく使われておりますし、道路も生きております。

今、何が心配かといいますと、たとえば、あおなみ線にしてもリニモにしても、今のような乗客の状態では近いうちに経営的に非常に厳しい問題が出ます。あんなに鳴り物入りでやって、あれだけ万博で大きな効果を果たした乗物をなぜ地元の人は閉会後使いこなせないのかということになっては大変心配だと思うのであります。何とかあの2つの乗物を採算が取れるといいですか、急には採算は取れないかもしれませんが、よく使われている、地元の役に立っている、地域の役に立っていると言われるようにしなければ、多くのお金をいただいているだけに恥ではないかと思っております。

道路につきましては、それほどではない、条件はもう少しいいのでありますけれども、これもいろいろな道路がたくさんできましたために、料金システムが非常に複雑になって使いにくいという声もございます。まだ、一般道路を使っている人がたくさんおります。あれがもっと有効に使われなくてははいけない。

同時に、あれを有効に使うためには、ここから先は陳情になるのでありますけれども、たと

えば東海環状道路の西側とか愛知環状2号線全線を整備してこそ、あれが生きるわけですね。

もうちょっとプラスアルファをすることによって大きく生きてくる面がある。その点はこれからもどんどんお願いしていくべきだと思います。

しかし、せっかく万博であれだけのものが入ったわけですから、道路にしても鉄道にしても、それを有効に使う努力を地元の間がする。リニモ沿線の方は、自家用車の使用を暫くおいてでも毎日リニモに乗る。あおなみ線沿線の方は毎日あおなみ線に乗る。そういうことでなければ、目標の3分の1とかの数値では恥ずかしい限りだと思っております。

絶対にこれはやらなければなりません。地元のメンツにかけてもやらなければいけない問題だと思います。道路もそうです。そのために、もう少し何かしてくださいというお願いはあっていいと思っております。

そんなことを議論いたしながら、せっかくのものを作っていたわけですから、何とかそれを有効に使うべきだと思えてなりませんので、個人的な問題提起といえますか、それをさせていただいた次第でございます。

○司会（中北 中部地方整備局副局長）

ありがとうございました。さらにご意見をいただきたいと思っております。恐縮でございますが、ご意見のある方は挙手をお願いいたします。

○野呂 三重県知事

私の方からは、まず今回おまとめいただきました構想につきまして、1つは時代の大きな変わり目でございます。

先ほど松尾さんからのお話にもありましたけれども、これからの社会は縮小社会になっていきます。少なくともこれまで戦後60年、私たちが考えてきた価値観や社会システムも合わなくなってくるということでございます。

そういう時代の転換点において、これから100年先まで見据えながらということでございますから、そういう意味では、このプランにはそういった眺めを持ちながらも、果たしてこの考え方を皆で共有できるかどうかという大変大きな課題が実はあるかと思っております。

そういう意味で今後、私としては大変すばらしい方向性をかなりしっかりと打ち出させていただいたと思っておりますが、これを私たちの圏域でどう価値観や考え方として共有する形で定着できるか。これが本当に目指せるかどうかという、一番大事なところになるのではないかと思います。

す。

特に、いわゆる協働の実現であります。私どもさっきの会するときにも申し上げましたように、三重はニュー・パブリック・ガバナンスの時代へ転換しようという取り組みをやっているところでございますけれども、こういったこと一つ取っても、時代の変わり目がなかなか理解されにくいものでございます。そういう大きな課題を抱えていると思います。

一言、感じたことだけ申し上げました。

○古田 岐阜県知事

私からも一言だけ申し上げたいと思います。国土の健康という、なかなか魅力的なテーマで、長期を睨んでおまとめいただきまして、まことにありがとうございます。

三重県知事さんからもお話がありましたように、これから大いにこの考え方を共有していく方向で、実行に移せるような形に進めていきたいと思っております。

先ほどの会もそうでございますし、このご提言もそうでございます。ある意味で大変結構なことで、いろいろな所で中部圏ということで広域的なものの考え方、対策はどうあるべきかという構想が出ておりますし、フォーラムもたくさんございます。そういう様々な構想、フォーラム間の連携をどのように考えるかということも念頭に置きながら、具体的に前に進んでいく必要がある。そのための非常に貴重なたたき台をいただいたと思っております。

それから、縮小ということもございますが、私どもから見ても財政的に大変厳しゅうございます。選択と集中でやっていかざるを得ないということでございますので、これも適切な指摘だと思っております。

それから、真ん中ということで整理いただいているわけでございますが、人口重心という概念がございます。日本国の人口、1人当たり体重を同じと考えて、どこに重心があるかということですが、岐阜県の関市の界隈が日本国全体の人口重心でございます。いろいろな意味で、交流のつなぎ役として、私どもとしては大いに意識して広域政策をやりたいと思っております。

最後に、愛知万博自身が海上の森で当初考えたのは、森の中で万博をやろうということだったわけでございますが、場所を移したことによりましてそっくりそのままというわけにはいきませんが、やはり森や木や林の中での万博という考え方はかなり引き継がれたと思うのでございますけれども、私どもは今、生きた森づくりということを県政の大きな柱にしておりまして、この問題はまさに松尾さんのおっしゃったように100年タームでやるべき問題で、これは岐阜県だけではございませんで、日本国どこを見ても森が荒れている。このことから来る災害の問題、あるいは環境・循環の問題、さらには観光でありますとか、生活でありますとか、中山間地域の問題でありますとか、あるいはグリーンツーリズムその他の交流でありますとか、生きた森を作ることがいろいろな意味で大きな課題になっているのではないかと考えており

ます。これを意識しながら私どもはやっていきたいと思ひますし、これは全国的な、あるいは中部圏の大きな課題だと思ひております。以上でございます。

○司会（中北 中部地方整備局副局長）

ありがとうございます。他にいかがでございますでしょうか。三重県知事と岐阜県知事からご発言をいただきましたが。

○須田 東海旅客鉄道(株)相談役

今の両知事さんのお話で、座長的な立場で私の考え方を申し上げておきたいと思ひます。

大変貴重なご意見をいただいて恐縮でございました。実は、縮小というお話が松尾先生から出まして、縮小は前進だというお話があったわけです。それを書いたらどうかというお話が実はありました。しかし、これには説明があるわけです。縮小は前進だとだけ書きますと、じゃあ道路はもういいよということになっても困るので、書きはしませんでした。非常に含蓄のあるお言葉でありまして、適度な縮小はやはり前進につながるわけでございます。そんな気持ちがこの中にこもっているということはお理解いただきたいし、さっきの先生のお話でおわかりいただけると思ひます。そういう議論が活発にございました。

もう1つ、今のお話でございますが、確かにこれは50年、さらにその先を念頭に置いたビジョンでございますので、細部に入っておりません。骨組みだけでございます。骨組みもたたき台的要素がまだ多分にあると思ひます。

そこで私がお願いしたいのは、お役所なり何なりでこれを受けた計画をこれからお作りいただいて、実行していただきたいと思ひますし、各県におかれましてもいろいろな県のビジョン、長期計画、交通計画、社会基盤計画をお立てになるときに、ここに載っているような考え方を参考にしたものをお作りいただいて、実行していただければ大変ありがたいと思ひます。その実行の過程でときどきフィードバックをしていただいて、この考え方でやったけどうまくいかなかったということがあれば、フィードバックしていただくべきだと思ひます。あるいは、もったこうしたらよかったということに気がついた、あるいは、このとおりにやったらよかったということがあると思うのでありますが、そういうものもフィードバックしていただければと思ひます。

この委員会はいつまであるか存じませんが、整備局や運輸局さんに事務局をやっていたのですが、これは永遠に不滅だと思ひます。今の局長さんがおられるかどうかは別として、そういう組織はあるわけでありまして、そこにこの委員会の事務局としての成果は永遠に残るわけでありまして、そこにフィードバックをしていただいて、そしてまた、こちらの方からも意見を出して、意見を対流させながら、対流というのはだんだん上に上がっていくわけでございますから、いい方向に向かって、本当にいい中部ができるような、そういうことが大事

だと思えます。

まずこういう考え方を議論していただき、実行に移していただいて、その結果をフィードバックしていただいて、意見を対流させながら、必要ならネオ万博宣言があってもいいだろうと思うのであります。そのように、これをスタートラインにして、中部元年でございますから、これからいろいろな所で皆さんがご議論していただければと思います。また、そういうご議論の材料をご提供申し上げたというところに意味があると思えますので、よろしくご指導のほどお願い申し上げます。ありがとうございました。

○司会（中北 中部地方整備局副局長）

ありがとうございます。まだ時間が5分程度あろうかと思えますので、ご自由にご発言いただきたいと思えます。

○松原 名古屋市長

先ほど、須田座長さんからあおなみ線のご心配をいただいた。大変ありがたいと思っております。名古屋のまちづくり全体であおなみ線の乗客誘致をしていかなければならないと思っておりますし、港の開発を通じて乗る人を増やしていくことをしなければならぬと思っております。

そういう中で私どもは、産業技術未来博物館であるとかいったものを沿線で立地させたいかがかという気持ちを持っております。そのために多くの方々のお力をいただかなければならないと思っております。ここに書いてありますが、自助・共助・公助による協働の実現の中で「役割分担を再認識し、住民・企業・行政の新たな協働を実現」とあるわけでございます。こういった精神がああいうものの中に生かされればと思います。

と同時に、そういったものが一つのモデルになっていくと良いと思えます。この精神が実現したら、具体的な形が出てこなければいけません。そういった意味で、松尾先生流に言うと名古屋は近未来くらいなところでやっていかなければなりません。100年先の縮小社会という話になりますと、本当にどうしていいかわかりません。名古屋市は今、駅そばルネッサンスといって、地下鉄の駅、拠点の所を魅力的なものにして、そのあたりに人が住み着くようにして、良好な緑を残して、その地域で近郊農業というのですか、緑、土に親しむような心豊かな生活を営むといった構想を描いておりますが、そういったものが実現できるようにしていくことが必要だろうと思っております。

本当に縮小社会といったことを今まで行政的に考えたことはございませんので、これについては相当真剣に考えなくてははいけないだろうと思っております。

○司会（中北 中部地方整備局副局長）

ありがとうございました。今少し時間がございますが、いかがでございましょうか。

○神田 愛知県知事

今回の提言の最もコアになる部分はやはり環境だと思います。国土マインドも、きっとベースに環境があるのだと思います。

私は、博覧会に関わった者の一人として今強く思っているのは、博覧会の開催前は環境で人が呼べるかという多くの皆様方の不安や心配がありました。環境というテーマで人が集まるのだろうか。華やかさやワクワク、ドキドキ、従来のテーマとは違うなということではありますが、環境で人が呼べるということがわかったわけでありまして、環境が経済もライフスタイルも社会活動も、あらゆるもののキーワードになるということが明らかに実証されたのが博覧会だと思います。

その意味で、今回おまとめいただいた提言の中で、きわめて環境を大切にし、コアとしてまとめていただいたのは、50年先、100年先の方向、ベクトルを示していただいたという意味で、大変高く評価したいと思いますし、ありがたいことだと思っております。

いずれにしても、問題はこれからの各論でありますけれども、なかなか難しい時代になってまいりました。容易に目的を達成できない、経済的にも、社会的にも難しい環境にあります。やはり、こういう、いわば国、地方、経済界がどう連携していくかということだろうと思っております。

博覧会のもう1つの大きな成果は、産官学が一つになれた、官民が一つになれたということでもありますので、その意味でも博覧会がこの地域にもたらしたものはすこぶる大きい。本当に大きなものがあると痛感しているところでございます。

感想めいたことを申し上げましたけれども、これから社会資本整備を進めていく上でも、今のような点を頭に置きながら、愛知県としては前へ前進していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

○司会（中北 中部地方整備局副局長）

ありがとうございました。

本来であれば皆様方全員の方からご意見をいただくべきところでございますが、この後別の会も控えているということでございますので、まことに恐縮でございますが、この辺で意見交換を終了させていただきたいと思っております。

では、閉会に当たりまして、国土交通省中部運輸局長谷山からご挨拶を申し上げます。

○谷山 中部運輸局長

中部運輸局長の谷山でございます。

本日は、貴重なご意見をどうもありがとうございました。

本日、「ポスト万博宣言」ということで、中部における国土交通行政の今後の指針をご説明させていただいたわけでございますけれども、本日この機会を作りましたのもまさに各県知事さんが言われていますように、示された提言をできる限り共有して、定着させていくことが非常に大事だと思ひ、このような機会を作らせていただきました。須田座長からもお話があったように、いろいろな意見を踏まえながらフィードバックしていくことが重要だと思っております。

私ども国土交通省中部運輸局、中部整備局と一緒にしまして、この提言をしっかりとやっていきたいと思ひますけれども、ご出席いただきました各県知事、各市長をはじめ、経済界の皆様方にも引き続きご協力をお願い申し上げまして、私の閉会のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○司会（中北 中部地方整備局副局長）

以上をもちまして本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。

◆終了